第１号議案　2018 年度事業活動報告・活動決算報告・監査報告について

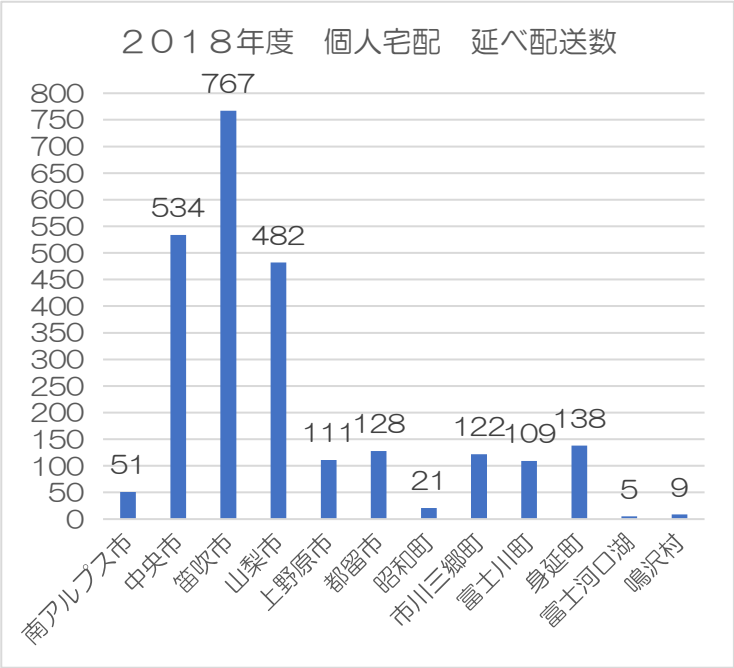
Ⅰ　食のセーフティネット事業（食料支援）

個人宅配による定期的な食料支援や連携機関との情報交換を継続して行いました。生活困窮世帯に延べ２４７７件、約２０トンの食品を宅配便で送りました。緊急的に食料が必要な方のために行政などを通して直接手渡しする緊急食料支援では、１９０回、約２トンの食品を提供しました。

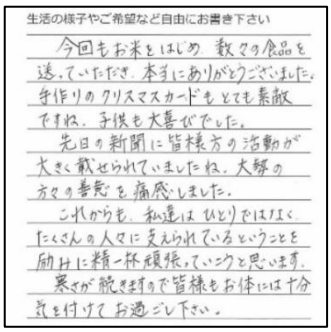
１　個人宅配

（１）連携する機関からの申請により、食料支援が必要な方へ、１ヶ月に２回（第２・４週）の個人宅配を実施しました。年内で発送した箱数は合計で２４７７箱、重量は合計で約２０トンとなりました。

	件数	重量
4月	203	1646.4
5月	202	1696.8
6月	214	1797.6
7月	220	1848.0
8月	219	1839.6
9月	215	1878.0
１０月	206	1806.0
１１月	218	1831.2
１２月	204	1738.8
１月	192	1656.0
２月	193	1602.0
３月	191	1632.0
合計	2477	20972.4



（２）個人宅配には、食品以外にも七夕の短冊や、クリスマス、バレンタインデーカードなどを季節に応じて同封し、社会との絆を繋ぐ支援を行いました。心のこもったカードは、中学校・高等学校の生徒の皆様に作成をしていただき、生徒の社会貢献活動の場としても機能しました。カードに対して利用者からの声も多数届きました。



生活の様子やご希望など自由にお書き下さい

今回もお米をはじめ 数々の食品を送っていただき、本当にありがとうございました。手作りのクリスマスカードもとても素敵ですね。子供も大喜びでした。

先日の新聞に皆様方の活動が大きく載せられていましたね。大勢の方々の善意を痛感しました。

これからも、私達はひとりではなく、たくさんの人々に支えられているということを励みに精一杯頑張っていこうと思います。

寒さが厳しくなりますので皆様もお体には十分気を付けてお過ごし下さい。

（３）電話や訪問による相談の際に、送った食品の利用状況を確認し、可能な限り利用者のニーズに合わせ、個人宅配にフィードバックをしました。今年度は食品だけではなく、日用品も希望者へ送りました。

（４）ボランティア同士の交流を深めるため、フードバンクこども支援プロジェクト後に「ボランティア交流会」を開催し、イベントの反省点や改善点などを話し合いました。

（５）倉庫整理を定期的に行い、食品在庫の把握に努めました。大量寄付食品に関しては多くの施設に声がけをし、幅広く配布をしました。

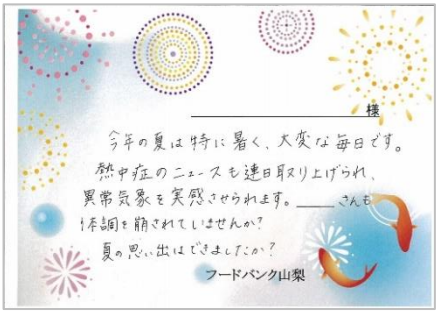
（６）地域に埋もれている困窮者への支援を強化するため、連携機関に対し、口頭や文章、説明会により申請を働きかけました。また、利用者に関する情報共有を行い、本人の状況に見合った支援の判断を促しました。

２　緊急食料支援

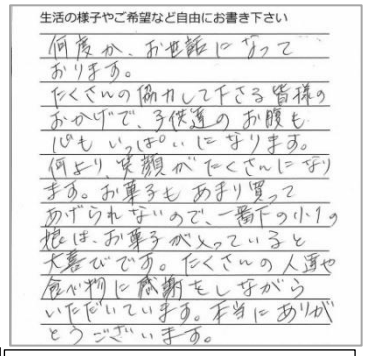
（１）個人宅配とは別に、緊急的に食料支援が必要な場合には、自立相談支援窓口や連携団体を通じて直接手渡しをする緊急食料支援を行いました。年度内に実施した緊急食料支援回数は１９０回、総重量は２０９７２．４ｋｇ（約２トン）となりました。

３　心の交流と個別ファイルによる情報管理

（１）手書きの手紙と「ふーちゃん通信」を交互に入れ、利用者との心の交流を図り、有用な情報提供を行いました。また、手紙と利用者からの返信ハガキのやり取りの中で、必要な食品や日用品の希望をとり、より充実した支援に繋げました。



ふーちゃん通信と手書きの手紙



利用者からの返信ハガキ

（２）支援経過を個別ファイルに記録・保管、必要な場合は、自立相談窓口と連携しました。

Ⅱ　生活困窮者自立相談支援事業（自立相談支援）

６市から生活困窮者自立支援事業を受託し、申請書や返信ハガキ等で相談が必要な世帯へ電話やメール、食品を持っての訪問など相談支援を実施しました。

１　生活困窮者への相談支援

（１）食のセーフティネット事業・こども支援プロジェクトの利用者について、市の自立支援相談窓口の依頼、返信はがきの内容、新規利用者の現状記入欄から、相談支援が必要な世帯への訪問相談を行いました。

２　自立相談支援窓口との情報交換

（１）利用者に食料支援を行う過程や、訪問相談支援で得た情報を自立相談支援窓口と共有しました。また、イベント等の情報を提供し、利用者にとってより良い支援に繋がるよう連携をしました。

Ⅲ　食品の収集・管理・配布

１　収集と配布

年間の食品収集量は、93 トンでした。

ミニフードドライブ（百々）一般食品	35、714
ミニフードドライブ（百々）米	18、222
ミニフードドライブ（甲府）一般食品	4、323
ミニフードドライブ（甲府）米	1、413
きずな BOX	3、601
全国協議会経由、企業（4～9月）	14、571
同意書締結企業（10 月～3 月）	3、258
全国協議会経由（10 月～3 月）	2、952
製パン会社から寄贈されたパン製品	3、773
こども支援プロジェクト期間フードドライブ	5、967
合計（ｋｇ）	**93、797**

※試験的にパルシステム生活協同組合連合会様から、日用雑貨品を 251.06 kg 受け入れました。

年間の食品配布量は、78 トンでした。

食のセーフティネット事業	20、972
緊急食料支援	2、164
施設配布	25、750
こども支援プロジェクト	24、774
「こども宅食」への米送付	860

製パン会社から施設に配布されたパン製品	3、773
廃棄	421
合計（ｋｇ）	78、785

（１）フードドライブ（一般・企業・スクール）
ミニフードドライブ：1834 件（事務所 1475 件、甲府支所 359 件）

（２）きずな BOX
ＪＡ南アルプス市様と株式会社いちやまマート様の 2 社 15 店舗に設置し、お客様から寄贈いただいた食品総量は 3、６トンになりました。

年間総寄贈量（kg）	3、601
内訳：Ａコープ白根店、甲西店	1、400
内訳：いちやまマート、イッツモア	2、200

（３）全国フードバンク推進協議会からの寄贈提案に対し、積極的に回答した結果、2952.5kg を超える食品を受け入れました。ただ、回答後に見送りとなる案件もありました。

（４）企業からの防災用飲料水や製品をパレット単位で受け入れました。新規問合わせ企業も４社あり、同意書締結の上、寄贈につながりました。また、国税庁によるフードバンクへの食品寄贈に対する法人税軽減の案内も企業に提案しました。

２　食品衛生に基づく倉庫管理（災害時の対応も含む）

（１）飯野倉庫と百々事務所とで、別々に食品衛生責任者を配置し、衛生管理に努めました。

（２）食品の先入れ先出しを実行し、廃棄を削減しました。

（３）保管中の賞味期限切れを防止するため、誰が見ても分かるように賞味期限月毎に仕分けした保管スペースと、動線の確保をしました。

（４）飯野倉庫の備品整備

月日	備品名	寄贈元
2018 年８月 15 日	業務用掃除機１台	本会計
2018 年 12 月 12 日	自動真空包装機３台	丸紅基金
2018 年 12 月 19 日	アコーディオンカーブコンベア２台	丸紅基金
2019 年１月 18 日	ウォータストイレ	丸紅基金
2019 年３月８日	センサーライト３台	本会計
2019 年６月納品予定	1.5ｔフォークリフト１台	パルシステム生活協同組合連合会

３　施設配布

（１）施設への個別訪問はできませんでしたが、一斉配布案内時のニーズ調査を行ないました。2L や 500m l の水、洗剤やトイレットペーパー等の日用品の需要を把握し、対応しました。

（２）施設一斉配布を４回実施しました。本当に食品を必要とする福祉施設に提供するため、全登録５６施設に第１回の案内を出しました。その結果、不要・連絡なしを除く約 30 施設には、継続的に案内を出し、毎回 20 施設前後が食品を取りに来ました。施設が直接寄贈元に取りに行く方法は、希望する施設が多く、３施設から８施設に増加しました。

Ⅳ　ボランティアの参加促進

１　ボランティア参加の促進

（１）毎週水曜日午後を定期活動時間に設定し、ボランティア活動年間予定表を作成しました。定期開催の結果、毎回 15 人以上の参加がありました。ボランティア活動日には活動終了後にお茶の時間を設け、活動についての改善点などの意見交換を行いました。

（２）フェイスブックで活動の様子を掲載しました。

２　社会貢献活動の拠点設置とプロボノ（専門的な知識や技術を社会に役立てるボランティア活動・人）の育成

（１）　新規開設する甲府事務所内に活動拠点を設けました。プロボノ活動は課題が残りました。

（２）学生インターンの受入はありませんでしたが、ボランティア参加希望がありました。

Ⅴ　フードバンクこども支援プロジェクト・乳幼児応援プロジェクト

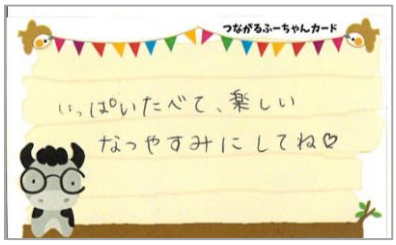
・夏休みや冬休みの子どもの欠食を防止し、健やかな成長をサポートするため「フードバンクこども支援プロジェクト」による食品宅配を夏に２回（６４９世帯に１５，５７６ｋｇ）、冬に１回（６５７世帯に７，８８４ｋｇ）実施しました。また、学習支援やイベントなどを開催し、楽しい経験の機会を創出しました。
・南アルプス市、笛吹市、中央市、大月市、都留市、山梨市に加え、上野原市と「子どもの貧困対策連携協定」を締結しました。計８６校の小中学校の準要保護世帯に食料支援申請書を配布し、合わせて利用者を対象としたアンケート調査を実施しました。
・2016 年の利用者への調査で約 3 割の回答者が、子どもが乳幼児時期から厳しい生活状況にあることが分かりました。「ミルクを薄めて飲ませた」「おむつの交換回数を減らした」などミルク・おむつが不足した経験がある世帯は約４割でした。ミルク・おむつ・食品が不足することなく、健やかに育つことができるよう、全国初の「乳幼児応援プロジェクト」を開始しました。

１ フードバンクこども支援プロジェクトの実施

（１）夏・冬合わせて、延べ１３０６世帯（４４６６人、子ども２７２１人）に２３，４６０ｋｇ（２３トン）の食料支援を実施しました。また、小林製薬株式会社と連携し、「フードバンクこども支援プロジェクト」の一環として母子家庭支援の「青い鳥こども支援プロジェクト」を推進しました。利用者からは「普段お菓子を買ってあげることができないので、たくさんのお菓子を見て子どもが喜んでいる姿を見られたのがとても嬉しかったです。」といった声が寄せられました。

（２）夏休みの食料支援

行政機関から申請のあった 78 世帯と、連携する南アルプス市、笛吹市、中央市、大月市、都留市、山梨市、上野原市の学校から５71 世帯の申請で、合計 649 世帯に対して、７月末～８月の間、２回の食料支援を実施しました。申請情報をもとに各家庭の人数や年齢等の状況をみながら、配送する食品の品目、数量などを決定し、通信を添えて宅配しました。夏休み中一人でお留守番をしている子どもたちへ支援者からの励ましのメッセージを送る「つながるふーちゃんカード」を作成し、食品と一緒にお届けいたしました。



２０１８年夏　フードバンクこども支援プロジェクト	
支援世帯数	６４９世帯
支援人数	２３４１人
１９才以下の子どもの人数	１３５５人
母子世帯数	４９９世帯（全体の７７％）
食品発送回数（２回発送）	１２９８回
学校からの申請世帯	５７１世帯（全体の８８％）
支援食料数	１５．５トン
延べボランティア参加数	４２３名

１回目の箱詰めとなるフードバンクこども支援プロジェクト「スタートイベント」では約２６０名の市民ボランティアが参加しました。中央市市長など行政関係者の出席もあり、箱詰め作業を行いました。（場所：県立白根高等学校）

第２回目以降の箱詰め作業は、フードバンク山梨飯野倉庫にて行いました。市民・学生・企業ボランティアに毎回２０名程参加していただき作業を実施しました。

（３）冬休みの食料支援

行政からの申請 92 世帯、学校からの申請 565 世帯の合計６５７世帯への食料支援を実施しました。普段プレゼントをもらう機会の少ない子どもたちに、クラウドファンディングで集まった寄付で１人１０００円のこども商品券（おもちゃ等購入できる券）を贈ることができました。

２０１８年冬　フードバンクこども支援プロジェクト	
支援世帯数	６５７世帯
支援人数	２３６８人
１９才以下の子どもの人数	１３６６人
母子世帯数	５０５世帯（全体の７７％）
食品発送回数	６５７回
学校からの申請世帯	５６５世帯（全体の８６％）
支援食料数	７．８トン
延べボランティア参加数	３１９名

箱詰めを行うラッピングセレモニーでは、ボランティアが県内外から３１９人が集まり、食品とクリスマスプレゼント（キーホルダー、ぬいぐるみ、子ども商品券）を箱詰めしました。協賛企業やスクールフードドライブ協力校にはセレモニーにおいて、日頃の感謝を伝えました。また、メディア４社の取材があり、活動の周知につながりました。

フードバンク山梨飯野倉庫で行われたスタートイベント前日の箱詰め作業では、女優の石田ひかりさんもボランティアに駆けつけてくださり、２９９箱の箱詰め作業にご協力いただきました。

（4）フードドライブの実施

第 15 回・第 16 回フードドライブ

行政との連携で１６の拠点を作り、メディアで積極的に食品寄付を呼びかけたことで取り組みが周知され、第１５回は１２トン、第１６回では１６トン食品が寄せられました。

ヴァンフォーレ甲府とのフードドライブ

今年３回目となるヴァンフォーレ甲府と共同で実施したフードドライブでは、サポーターから約１６０ｋｇの食品寄付が寄せられました。

スクールフードドライブ

山梨県高等学校 PTA 連合会と「子どもの貧困対策連携協定」を締結し、広く県立高校でのフードドライブやボランティア活動を広めました。小・中学校や県立高校、大学延べ 49 校が校内で食品を集め、その取り組みを通して、貧困問題を考える機会となりました。

（５）学習支援・楽しい機会の創出

経済的な理由で塾に行けなかったり、親が働くことに精一杯で宿題を見てもらうことができない子どもたち一人ひとりに寄り添った学習支援を実施しました。自尊感情を高め、自信をつける心の支援になりました。フードバンクキッチン（バーベキュー大会）は、「夏休みにレジャーにつれていけない」との利用者の声を受けて実施しました。家族での参加を促し、楽しい夏の思い出作りとなりました。

夏休み学習支援（くれよんひろば）２９名参加

中央市と都留市の２会場で行いました。宿題を進めるだけではなく、中央市ではキユーピー株式会社様のご協力で、都留市では生活協同組合パルシステム山梨様のご協力で調理実習を行いました。

テーブルマナー講座　１６名参加

甲斐の郷ロータリークラブ様のご協力で甲斐市のレストランにてテーブルマナーを学び、美味しい食事をいただきました。施設内にあるパイプオルガンを聴いたり、飼育されているポニーや山羊、うさぎとのふれあいも良い思い出となりました。

ヴァンフォーレ甲府サッカー観戦　１００名参加

株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ様よりチケット１００枚の寄付を受け、希望する世帯に配布をし、親子でサッカー観戦を楽しみました。

フードバンクキッチン（バーベキュー大会）３３名参加

バーベキューやニジマス釣り、スイカ割りなどで賑わいました。株式会社大森畜産様、甲府北ロータリークラブ様のご協力で様々な経験ができ、夏休みの思い出となりました。

神明の花火大会８７名参加

JIT 株式会社様の敷地内で食事を楽しみながら親子で神明の花火を楽しみました。

冬休みの学習支援（くれよんひろば）２４名参加

夏と同様、中央市と都留市の２会場で実施いたしました。宿題だけではなく中央市ではマジックショーが、都留市ではキユーピー株式会社様のご協力で食育教育が実施され楽しい時間となりました。

親子で行くお台場日帰りツアー　４２名参加

山梨交通株式会社様とのタイアップによりバスツアーを実施いたしました。お台場にある日本未来科学館やフジテレビを見学し、楽しい親子の時間を過ごしました。昼食は株式会社丸政様よりお弁当をいただきました。

当日は石田ひかりさんも駆けつけて下さり、参加者におみやげをいただきました。

２　教育機関との連携強化

（１）教育現場で把握した生活困窮家庭への食料支援を実施するため、学校からの申請を受け、中央市（８校）・南アルプス市（２２校）・笛吹市（１９校）・山梨市（１１校）・大月市（７校）・都留市（１１校）の他に新たに上野原市（８校）と連携を結び、小中学校からの申請は全体の87%を占めました。

（２）子どもの貧困対策に連携して取り組むことを目的に、今年度は上野原市と「子どもの貧困対策連携協定」を締結しました。

３　利用者へのアンケート調査

（１）回答者 200 人の内、現在の暮らしの状況について「苦しい」、「やや苦しい」の回答の合計が８割を超え、また半分以上の世帯が「貯金はない」と回答するなど大変厳しい状況が分かりました。

調査対象者の 8 割がひとり親世帯であり、多くのひとり親世帯が養育費を受け取っていない課題なども明らかになりました。

4　乳幼児応援プロジェクトの実施

（1）山梨県保育協議会と連携し、乳幼児がいる生活困窮世帯へ年に２回の食料支援を実施しました。

（2）ミルク・おむつ・食料配布や、医師による健康相談、歯科医師による歯科検診、子どもが楽しく過ごせるイベントなど、様々な連携団体と実施する「フードバンクすくすくキッズフェスタ」を１０月に実施しました。15 世帯 44 人が参加しました。

Ⅵ　学習支援「えんぴつひろば」

４月より中央市福祉課からの委託を受けて学習支援教室を行いました。貧困世帯の子どもたちが安心して学び、昼食を食べ、楽しく過ごせる場を提供しました。年間４０回の開催で、子ども延べ 408 人、ボランティア延べ 542 人が参加しました。

1　中央市での学習支援

（1）毎週土曜日、Ａ班Ｂ班に分け、隔週で学習会（愛称「えんぴつひろば」）を開催しました。
対象：中央市在住で、①行政や教育現場と連携して特定した当法人が食料支援する困窮世帯、②生活保護、準要保護世帯、③その他支援が必要と思われる世帯、の小学生から中学生までの子どもを支援しました。

（2）教員ＯＢ、大学生、経験者に講師を、一般の方に昼食準備のボランティアを依頼して、多くの方々にご協力をいただきました。

（3）保護者からは子どものみならず生活全般の相談に対応し、必要に応じて食料支援等へ繋げました。

（4）多くの外国籍の子どもたちを受け入れ、日本語や宿題の支援を行いました。

（5）生活状況や自己肯定感を問うアンケートを実施し、子どもたちの傾向を

知ることができました。

２　子ども食堂との連携

（１）子ども食堂との連携を目指しましたが、協力してくださる団体との協働には至りませんでした。

３　フードバンクキッチンの開催

（１）調理ボランティアに昼食の準備をしていただき、みんなで一緒に食事をしました。配膳や片づけ、マナーの指導をしたり、お腹いっぱい食べてもらったりすることで、食育の機会としました。

（２）朝食を食べてこない子どもがいたため、朝のバナナを用意しました。

（３）株式会社サンキムラヤ様（パン）に加え、株式会社大森畜産様（精肉）からご寄付をいただき充実したメニューとなりました。

Ⅶ　広報、ドネイション・助成金他申請強化

１　個人・企業への寄付、入会、遺贈呼びかけの強化

（１）食品や活動資金の寄付を新規企業へ幅広く呼びかけました。新たな寄付の仕組みを構築し、全国から寄付を募りました。
新規企業へ乳幼児応援プロジェクトのご協力依頼の手紙を入れ送付したことにより、企業からの支援へとつながりました。

（２）遺贈・相続財産寄付を発信し、全国から寄付を募りました。
遺贈のチラシ、パンフレットを作成し、HP への掲載とともに会計事務所などへ設置をお願いしました。

（３）「フードバンクこども支援プロジェクト」「乳幼児応援プロジェクト」でのクリスマスプレゼント、ミルク・おむつを送るための資金をクラウドファンディングサイト CAMPFIRE で募り、８２名の方から 85 万円をご寄付いただきました。

２　10 周年記念シンポジウムの開催

（１）設立 10 周年を記念し、８月に山梨県立図書館において、「子どもの貧困対策を学校との連携で～お腹を空かせた子どもたちを救った一本の電話～」と題しシンポジウムを開催しました。参加者は 133 名でした。シンポジウム後にフードバンクカフェを開き参加者と懇親を深めました。

３　広報・認知度アップ

（１）多様なツールを活用し、情報発信を強めました。
メールマガジンの発行とグーグルでの無料広告の発信の準備を進めました。

（２）事業やイベントの開催に関して積極的にニュースリリースを行いました。

（３）講演会 20 回、視察・研修受け入れ９回を実施し活動への認知度向上に努めました。

４　助成金・補助金申請

（１）助成金を積極的に申請し、活動資金の拡大を図りました。

助成金：山梨福祉財団
積水ハウスマッチングプログラム
丸紅基金助成金

受賞　：あしたのまち・くらしづくり活動賞主催者賞
第６回エクセレント NPO 大賞　課題解決力賞

５　県内レストラン等に募金箱設置

（１）認知度向上や寄付の増加を目的に、飲食店を中心に 100 店舗に募金箱を設置していただきました。
８月には、「いいことあったら募金しよう！～子どもにつなごうスマイルのバトン～」キャンペーンを行い、156,321 円の募金が集まりました。
年間では 394,273 円の募金が集まりました。

Ⅷ　組織運営強化

１　人事評価制度の充実

（１）人事評価制度の項目を精査し実施しました。一人ひとりに評価を５段階グラフで示し、評価が低い項目について改善を求めました。

２　業務管理システムの確立と運用

（１）業務管理システムを運用しましたが、今後も改善しながら継続していきます。

（２）寄付者・利用者の情報をセールスフォースに完全に移行し、運用を開始しました。

３　人材育成の取り組み

（１）パソコン技術向上のため、パソコン教室で計６回にわたる講習を受講し

ました。
（２）内閣府が実施する「子供・若者育成支援のための地域連携推進事業（青年リーダー研修会）研修」に参加しました。
（３）農林水産省「フードバンク活動促進交換会」に参加しました。
（４）「フードバンク活動・支援税制緊急説明会」で損金算入について理解を深めました。
（５）「子どもの貧困対策マッチング・フォーラム IN 東京」にて企業との意見交換を実施しました。
（６）「地域支え愛セミナー」に参加し、子どもへの接し方について先進事例を学びました。

Ⅸ　政策提言

１　９月 文部科学大臣へ「子どもの貧困対策に関する提言書」を提出
（１）学校教員や保育士、支援世帯を対象にアンケート調査を実施した結果、教育現場、保育現場において貧困世帯の子どもが把握できていない現状や家庭への介入の難しさが明らかになりました。教育現場、保育現場における子どもの貧困の早期把握、早期支援を実現するために、提言書を文部科学大臣へ提出しました。

1.小学校・中学校・高等学校教員、保育士・幼稚園教諭の育成課程（免許取得課程）に貧困に関する科目の導入を
2.教育現場とＮＰＯとの連携促進を
3.スクールソーシャルワーカー(ＳＳW)の増員を

２　自治体への提言
（１）甲府市の子どもたちへ継続的な支援できるようにするために、３月に甲府市長へ子どもの貧困対策予算に「子供の未来応援地域ネットワーク形成支援事業」や「ふるさと納税」を活用していただけるよう提案しました。

Ⅹ　甲府市との連携

１　拠点の設置
（１）中央４丁目１１－９に甲府支所を開設し、甲府市に「フードバンクこども支援プロジェクトの事業提案」を実施しました。提案は受け入れられませんでしたが、2019 年３月１３日に再度、同提案を行い、現

在返答待っています。

（２）甲府支所を拠点とし、以下の新規事業や寄付活動などの取り組みを推進しました。

・乳幼児応援プロジェクト

・山梨県保育協議会との連携　等

２　フードバンクこども支援プロジェクトの検討

（１）市・教育委員会と連携し、「フードバンクこども支援プロジェクト」を検討しましたが、実施には至りませんでした。

３　活動への参加を促す取り組み

（１）甲府市の企業・市民を対象に、食品・お金の寄付、ボランティアの参加を促す以下イベントを実施・参加しました。

・24 時間テレビ「愛は地球を救う」北口イベント参加

・いいことあったら募金しよう「子ども応援募金」

・岡島での募金呼びかけ

・バレンタインチョコレート寄付呼びかけ

・会計事務所への遺贈チラシ設置依頼　　等

Ⅺ　その他

１　「食品ロス削減推進法案」緊急院内集会への参加

（１）法案の早期成立を目指し、衆議院会館で開催された緊急院内集会に参加しました。